

日本家系図学会 役員会報告

2014.7.28(月)

以下に、先日7月24日(木)午後5時30分～約1時間、開催された役員会の報告を申し上げます。

場所：広尾の 東京神殿別館の礼拝堂

参加者など：今回は平日夕方の開催ということで、結局、会長以下4名の出席となった。なお、数名を除き、欠席者からは委任の連絡を受けており、役員会は成立し、以下の議事も全て了承された。

1 経理関係の審議

大森事務局長代理から、平成25年度収支決算書、26年度収支見込書及び27年度収支予算書案が提示・説明された。

概要としては、平成25年度は前年度とほぼ横ばいの数字で、今26年度もほぼ同様の見込みだが、今年もまた会費納入の実会員数が若干減少の動きもあって、この面は相変わらず予断を許せない面がある。まだ、会計監査を終えていない状況とのことで、これからの会計監査が問題なく終了することを条件に、上記3案については役員会了承とされた。役員の皆様には、別途、事務局から関係書類をメール送付することになる。

2 本年度総会の手順など

日時：11/8(土)午後3時～5時 ※今年はずっとより約1週間遅れにご注意。

終了後に有志による懇談会：午後5時半～

場所：広尾の 東京神殿別館の礼拝堂

(例年の総会が開かれる会場と同じ。有栖川公園横の坂道の左側)

上記、日程は了承された。9月中旬頃に、会員に対して総会のご案内通知を出す予定。なお、今年度は役員の変更等はありません。

3 講演の講演者 渡邊大門(わたなべ・だいもん)さんに依頼することを確認した。

講師撰定に若干紆余曲折がありましたが、結局、赤坂顧問のご尽力もあって、このようになりました。ご意見をよせられた方々には感謝申し上げます。

渡邊氏は、播磨・備前の赤松氏や宇喜多氏などの中世武家研究の専門家で、赤松氏関係の著作・論考が多数あり、最近『宇喜多氏と浦上氏』の書を刊行された。

講演内容は、宇喜多氏を中心に浦上氏についても併せ取り上げる予定とのことです。

5 その他

○会員の増加がもうすこしあれば経営健全化の方向に進めるのだが、適宜、これにつとめるとともに着実に活動をしていくしかないなど、意見交換が行われた。

○会員ではないが、かなり熱心すぎるほど事務局に架電がある人の問題があり、これは適宜、調査研究部のほうに回すことで対処することにした。

○会誌12号の原稿は、つづきものが多いので、比較的無難に編集できそうだが、経費均一化のなかで、適宜、全体のなかで頁数の調整をするなどの配慮をしていく必要がある。内容的に新鮮みをだすことも更に考えたい。

(以上) 文責：宝賀寿男